

個票 13 管理による多様な草地環境の維持〔森 2(2)①10-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	多様な緑地などの保全・創出		
配慮事例	管理による多様な生息・生育環境の維持・創出		
内容	<p>●管理による多様な草地環境の維持</p> <p>【解説】</p> <p>採草地に成立するススキ草地は、定期的な刈り取りにより成立している植生で、多様な草原生植物が生育している希少な環境です。しかし、戦後の採草活動・刈り取りの停止、山火事の減少などにより、ネザサの勢力が増加してススキや草原生植物が減少しつつあります。</p> <p>このような草地環境を守るために、ススキ草地の成り立ちを把握して、環境を維持するような管理が望まれます。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●刈り取り管理</p> <p>①ネザサの勢力を抑えるために、初年度は夏と秋の2回刈り取りを行います。</p> <p>②2年目以降は、年1回秋に刈り取りを行います。</p> <p>③ネザサの繁茂を防ぎ、多様な草地生植物が生育する草地環境を維持するためには、刈り取り管理を継続していくことが望まれます。</p> <p>●協働による活動の継続</p> <p>①刈り取り管理には多くの人手が必要となることから、管理を実施し継続していくためには地域住民やNPOなどの活動団体の協働が必要です。</p> <p>②多くの人に関わってもらうためには、保全活動について広く情報を発信し、イベントを行うなどの工夫が望まれます。</p>		

【事例 1】



【場所】

神戸市灘区・芦屋市 東お多福山

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ 草原の再生を目指して、複数の活動団体が協力して、刈り取り実験と刈り取り管理を行っている。
- ・ 刈り取り実験の結果、1年目に夏と秋の2回、2年目に秋1回の刈り取りをすることで、ネザサの草丈が低く抑えられ、ススキの被度が増加して、ススキ草原らしい植分になりつつあることが確認された。

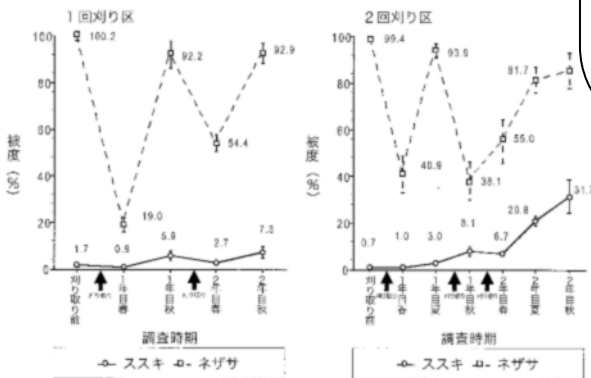


図2 管理後のススキおよびネザサの被度の変化 スカラーバーは標準誤差を示します。

出典:1

【事例 2】

【場所】

長野県安曇郡堀金村

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ 草地性のヒメシロチョウの個体密度と環境条件の関係性の調査研究を行った。
- ・ その結果、ヒメシロチョウ成虫の活動空間の整備のためには、開放的な草地で、吸蜜植物が高密度で開花しており、微風環境となる条件の整備が重要と考えられる。草地周辺に防風林を整備するなどして微風環境となるよう条件整備することにより、成虫の滞留を促すことも可能と考えられた。

参考資料

- 1 「東お多福山のススキ草原の再生を目指して 生物多様性豊かな草原の復元管理計画 平成 21 年 (2009) 第二年度報告」ブナを植える会
- 2 「ヒメシロチョウ成虫の活動空間の整備に関する研究」中尾史郎ほか, ランドスケープ研究 63(5), 2000